

わかちあいプロジェクト

NEWS No.20

2004 DECEMBER

ウーイン市マラソンで2位になったアンパチョウ選手



一人からはじまる希望

松本傑 わかちあいプロジェクト代表

エチオピアの難民マラソンランナー、アンパチョウ選手は、1999年夏、カクマ難民キャンプ（ケニア、北西）のワークキャンプに参加していた日本の青年たちと出会ったことがきっかけで、2000年12月の福岡国際マラソンに参加する道が開けました。そのとき高村恵明さん（難民の支援活動中に交通事故で2001年7月死亡）がボランティアとして福岡にだけ、彼のための世話を引き受けてくれたことになりました。当時はまだ無名であったアラバ選手（エチオピア、シドニーオリンピック優勝）と一緒に大濠公園で一緒に練習した姿を、昨日のように思い出します。

そのときの体験がもとで高村さんは、わかちあいプロジェクトのスタッフとしてカクマに赴任して、アンパチョウ選手と他の2人の難民ランナーを日本に招待する準備にあたりました。2001年4月に再度、長野マラソンに参加する直前、再戦のプレッシャーに耐えられなかったのでしょうか、

ナイロビ郊外の高地で練習中に知り合ったオーストリアの選手の導きで、アンパチョウは、オーストリアに出国しました。

オーストリアでは、マラソンと演劇に取り組みながら、定住する身分をえるように努力してきましたが、3年半の苦闘のすえやっと、定住が認められ、1、2年後にはオーストリアの市民権が得られる見通しになりました。12年の難民としての生活にやっと終符をうって、暗れて自由の身となることができました。

難民一般への支援から、一人一人につながりながら支える支援、一人の希望が、全体への希望という考えが、こうような形で実を結ぶことができました。

人的、財的に支えてくださった皆さまの協力なくしては現在のアンパチョウ選手はありません。

ありがとうございます。

フェアトレードプロジェクト

2 フェアトレードラベル、テイクオフするか？

1993年設立しましたトランスフェアージャパンは、ロゴが新しくされる機会にフェアトレード・ラベル・ジャパンと名称をかえNPO法人として再出発いたしました。最近、毎日のように青年たちから問い合わせとボランティアに参加したいとの申し出を受けています。フェアトレードについて、時代の意識が少しずつ変わってきているようです。

www.fairtrade-jp.org

欧米では政府機関も支援してフェアトレードを推進していますが、日本ではその手立が見つけられないなかで、環境省に提案した私たちの提案が入賞しました。（環境省のホームページからアクセスできます）何かのきっかけになればと思います。また、通産省の外郭団体である国際貿易投資研究所では、フェアトレード研究会がもたれ、私たちが最初の報告をいたしました。



フランスの若者たちと一緒に川をさぐ



新しいフェアトレードマーク

若者に広がるフェアトレードへの関心

こんにちは。スウェーデンにいる池田千恵さんに紹介してもらってこのフェアトレードのHp www.fairtrade-jp.org

を拝見させていただきました。池田さんは大学で一緒にスウェーデン語の勉強をしています。

去年私もスウェーデンに留学して、そのときにフェアトレードというものに初めて出会える機会を得ました。

今まで当たり前のように東南アジアで安くつくられた服を着て、銀細工のアクセサリーを身につけ、アフリカの子どもたちが汗流して作ったコーヒーを飲んできました。それを作っている現地の人々のことに思いをはせたことなどありません。

フェアトレードという考え方を知ったときは驚愕で、世界がらっと変わる感じがしたのを今でも覚えています。

今まで何の疑問も無く、あらゆる製品が好きなので享受できる生活にどっぴりと使っていた自分が恐ろしくさと思えました。そして、これから私は何をどうするべきか考えていました。

けれど、自分ひとりでは、実はなかなか行動を起こせなかったのです。実際何をしていいかわからない。日本には思いのほかフェアトレード商品は少ないし、あっても取り寄せて手に入れるしかなかったり、普通に立ち寄るお店にある服や何かは一体どこでだれに作られているのかわからない。

だからといってフェアトレード商品しか買わないということまではできない。日々、そんな葛藤でした。少し落ち着いて考えてみた時、私と同じように考えて少しずつ自分たちでできる範囲から活動していくことががんばっている人達がたくさんいることに気がきました。このHpを見てからです。

背伸びして「何かやらなければいけない！」と一人で勝手に焦っていましたが、まずずっと関わり、状況把握する必要があるんじゃないかと思えました。

そこでフェアトレードについてみなさんと一緒に考えて自分でもできることを広げていきたいと思っています。私にできることからならそれを大切にして、さらにそこから周りの人にもこういった尊い考えを発信していきたいです。

各国のフェアトレード イギリス編

イギリスのフェアトレード事情を報告いたします。今イギリスは最もフェアトレードの熱い国です。消費者、学校、企業、政府、自治体を手を取り合せて取り組んでいます。

◆イギリスにおけるレギュラーコーヒーの市場で、フェアトレードのシェアは18%。イギリスにおけるコーヒー全体（インスタント含む）の売上では3%がフェアトレード。

☆この4年間でイギリスにおけるフェアトレードコーヒーの販売額は70%近く増え、今もその傾向は続いている。

◆イギリスの人々は毎日170万杯のフェアトレードの紅茶、コーヒー、ココアを飲み、毎週150万本のフェアトレードバナナを食べる。（イギリスのバナナ市場のうち、4%がフェアトレードバナナ）

◆過去3年間にフェアトレード製品の売上は二倍以上になり、2002年の売上は6260万ポンドに達した。

◆2003年のフェアトレード製品の予測売上高は9200万ポンドを越え、昨年を46%上回る見込み。

◆2003年、イギリスの消費者は毎週200万ポンドをフェアトレード製品に対して支払っている。（1994年には、年間を通して270万ポンドであった。）

◆2000-2003年のフェアトレード製品の売上における各フェアトレード製品の伸び率は、コーヒー：121% 紅茶：86% チョコレート：188% パナナ：206%

◆現在、コーヒー、紅茶、果物など100以上の製品に對してフェアトレードラベルがつけられており、25以上の全英規模のスーパーマーケット※でフェアトレード製品が販売されている。※ Asda, Budegens, Booth, Co-op, Morrisons, Sainsbury's, Safeway, Somerfield, Spar, Tesco, Waitrose など